お詫びと訂正

本書『脇役たちの西洋史』の編集過程で作業ミスがあり、第1刷の138頁末行以下に、脱落箇所が生じてしまいました。

読者のみなさまならびに著者・編者の先生方に多大なる迷惑をおかけすることになってしまいましたこと、謹んでお詫び申し上げますとともに、左記のとおり訂正させていただきます。

（八坂書房編集部）

＊

【訂正内容】

■本書138頁末行、「……イベントの場として選ばれたのであった。」のあとに、改行して以下の本文を追加（裏面参照）。

この結婚儀礼については、『すばらしきフランドル年代記』にその様子がこと細かに記述されている。この年代記の性格について、今一度確認しておこう。『すばらしきフランドル年代記』は、一二世紀に記述が始まり、一五世紀中にリール周辺でラテン語からフラマン語訳がなされたというフランドル地域の年代記『フランドリア・ゲネローサ』を書き継いでいった年代記であった。一五三一年にアントウェルペンでその決定版ともいえる印刷版が出版されたが、一五世紀中に製作された写本版もいくつか存在している［◉図4］。『すばらしきフランドル年代記』は、一四三六年以降の部分は一四八二年までローフェレにより記述されているが、その後も一五一五年まで、ブルッヘの修辞家たちによって書き継がれていったのである。この年代記のもとになった『フランドリア・ゲネローサ』は、フランドル地域の君主であるフランドル伯の事績を年ごとに記述していく形式をとっていた。『すばらしきフランドル年代記』におけるローフェレ以降の記述部分もこの形式を基本としたが、彼らの居住地であるブルッヘに関わる出来事を中心とした叙述となっている。とりわけ一四六八年の結婚儀礼の叙述には、一〇葉（二

この結婚儀礼については、『すばらしきフランドル年代記』にその様子がこと細かに記述されている。この年代記の性格について、今一度確認しておこう。『すばらしきフランドル年代記』は、一二世紀に記述が始まり、一五世紀中にリール周辺でラテン語からフラマン語訳がなされたというフランドル地域の年代記『フランドリア・ゲネローサ』を書き継いでいった年代記であった。一五三一年にアントウェルペンでその決定版ともいえる印刷版が出版されたが、一五世紀中に製作された写本版もいくつか存在している[◉図4]。『すばらしきフランドル年代記』は、一四三六年以降の部分は一四八二年までローフェレにより記述されているが、その後も一五一五年まで、ブルッヘの修辞家たちによって書き継がれていったのである。この年代記のもとになった『フランドリア・ゲネローサ』は、フランドル地域の君主であるフランドル伯の事績を年ごとに記述していく形式をとっていた。『すばらしきフランドル年代記』におけるローフェレ以降の記述部分もこの形式を基本としたが、彼らの居住地であるブルッヘに関わる出来事を中心とした叙述となっている。とりわけ一四六八年の結婚儀礼の叙述には、一〇葉（二

◉—4 『すばらしきフランドル年代記』 15世紀中の製作とされる写本の一つ
結婚儀礼の入市式のあとブルッヘの広場で行われた貴族たちの馬上槍試合の様子が描かれている。